

25年ぶりとなった令和の発掘では、のべ1200箱におよぶ多量の出土遺物に加え、新たな発見がいくつもありました。また2024年は、遺跡発見から50年の節目の年であり、展示会やシンポジウムなどイベントが多数行われました。皆様のお力添えのおかげで無事に調査を終えることが出来ました。これからは発掘調査報告書の作成を進めていきます。今後も長瀬高浜遺跡にご注目ください。



年	月	できごと
2022	11月	YouTubeチャンネル開設、動画公開開始
	12月	長瀬高浜遺跡(2区)発掘調査開始
2023	5月	長瀬高浜遺跡(2区)発掘調査完了 約150箱の出土遺物、中世の畠跡、古墳時代の集落跡などの調査成果 「新・長瀬高浜だより」刊行開始
	6月	長瀬高浜遺跡(1・3区)発掘調査開始
	11月	1区で囲炉裏跡発見、3区で鍛冶炉跡発見(いずれも古墳時代前期) 現地説明会開催(103名参加)
2024	12月	長瀬高浜遺跡(1・3区)発掘調査完了 約700箱の出土遺物、4基の古墳、60棟以上の竪穴建物跡などの調査成果 長瀬高浜遺跡発見50周年
	3月	発掘調査速報展「砂に埋もれた古墳時代の集落 長瀬高浜遺跡」(鳥取県立博物館)
	4月~6月	発掘調査速報展 in ゆりはま(湯梨浜町役場本庁舎・湯梨浜町立図書館・湯梨浜町中央公民館泊分館)
	5月	長瀬高浜遺跡(4・5区)発掘調査開始
	7月	長瀬高浜遺跡(5区)発掘調査完了 中世のヒトや動物の足跡を多数検出
	10月	現地説明会開催(164名参加) 湯梨浜町主催 長瀬高浜遺跡発見50周年記念講演会「巨大集落遺跡と埴輪を語る」(ハワイアロハホール)
	10月~2月	湯梨浜町主催 特別展示「砂とうみの物語ー砂丘に消えた大集落と埴輪の謎ー」(羽合歴史民俗資料館)
	11月	発掘現場見学会開催(120名参加)
	12月	長瀬高浜遺跡(4区)発掘調査完了 約300箱の出土遺物、古代の鍛冶炉跡、7基の古墳、30棟の竪穴建物跡掘などの調査成果
	2025	1~2月
3月		発掘調査速報展「砂に消えた大集落 長瀬高浜遺跡」(鳥取県立むきばんだ史跡公園)

イベントもたくさんあったな!



量・質ともにすごい遺跡でした。



雪の中の発掘作業(2023年12月)



速報展のようす(2024年3月 鳥取県立博物館)



現地説明会のようす(2024年10月)

最新情報コーナー

発掘調査の最新情報はホームページやFacebookでチェック! YouTube公式チャンネルでは、遺跡の解説動画や発掘現場リポートを配信中です!

※新・長瀬高浜だよりのバックナンバー、現地説明会資料などは鳥取県文化財団調査室のHPでダウンロードできます。

ホームページ



発掘や整理作業でわかった最新情報を随時発信します!



YouTube



きぬちゃんが調査成果を楽しくリポート!チャンネル登録よろしくね!



発行機関

公益財団法人 鳥取県教育文化財団 調査室

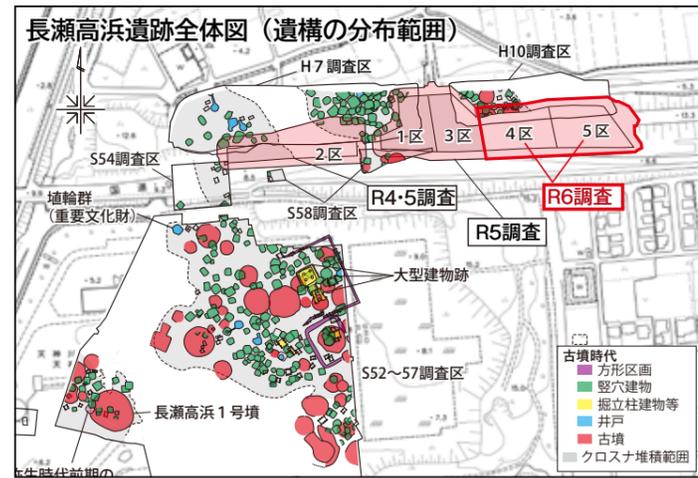
〒682-0704 東伯郡湯梨浜町南谷528-1 TEL:0858-35-5335 FAX:0858-35-5336
HP: http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasisu.html



新・長瀬高浜だより

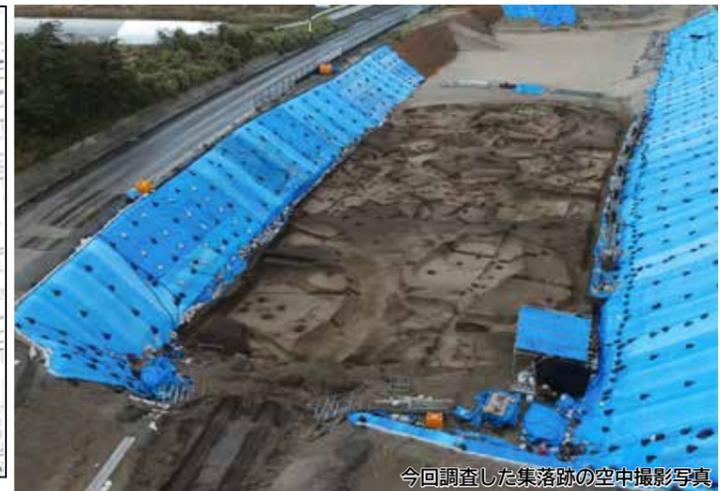
2025年2月28日発行

ついに令和の発掘調査終了!!



【調査の概要】
調査地点:長瀬高浜遺跡4・5区
調査期間:令和6年5月7日~令和6年12月27日
調査面積:3,632㎡(4区:1,816㎡、5区:1,816㎡)

公益財団法人 鳥取県教育文化財団 調査室では、遺跡の発掘調査や出土品の整理作業など、埋蔵文化財の調査を行っています。令和6年12月をもって、長瀬高浜遺跡の3カ年に渡る発掘調査が終了しました。今号では今年度の発掘調査の最終成果を紹介します。



今回調査した集落跡の空中撮影写真



土器の検出作業

長瀬高浜遺跡とは? ~遺跡の概要と令和の発掘調査~

長瀬高浜遺跡は、鳥取県東伯郡湯梨浜町に所在する砂丘遺跡です。1974年の遺跡確認以降、下水道処理場建設や一般国道9号改築事業などに伴って行われた発掘調査により、集落跡、古墳などの墳墓、畠跡など、多くの遺構が発見されました。国の重要文化財に指定された埴輪群や、金属製品、大量の土器など遺物も豊富で、鳥取県を代表する遺跡の一つです。

前回の調査から約四半世紀が経過した現在、湯梨浜町はわい長瀬から東伯郡琴浦町槻下までの区間で建設工事が進められている北条道路の工事範囲に遺跡の一部が含まれていたため、令和4年度から3カ年の計画で、はわいインターチェンジ付近の約8,500㎡の発掘調査を行いました。



古墳時代の集落跡を調査

大きな竪穴建物と鏡

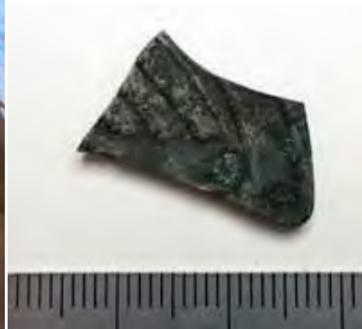
調査地の北西で見つかった竪穴建物は、残っている部分だけでも面積が50㎡におよび、今回見つかったものの中で最も大きく、過去の調査で見つかったものの中でも大型に属する建物です。

埋土からは土器等とともに、中国で作られた青銅製の鏡「飛禽鏡」の破片が見つかりました。小さな破片ですが、割れた面の一部が丸くなっており、割れた状態で使われた「破鏡」と考えられます。

国内では、飛禽鏡は古墳の副葬品として十数例しか出土しておらず、集落の建物から出土したのは初めてのことです。



▲大型竪穴建物跡



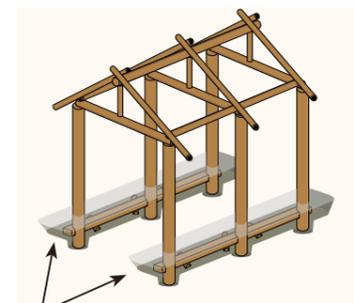
▲飛禽鏡（破鏡）

古墳時代中期の古墳群の下層から、古墳時代前期に営まれた集落の跡が見つかりました。調査地中央の「水場」を中心に、竪穴建物跡約30棟の他、大規模な布掘建物跡も検出されました。また、大量の土器と共に珍しい銅鏡や青銅器が出土しました。布掘建物は倉庫であった可能性も考えられ、遺跡の北東端にあたるこの場所での集落の成り立ちを考えるうえで非常に重要な発見です。

ぬのぼり たてものあと 布掘建物跡

平行する2本の溝を掘り、その中に柱を立てて造られた建物の跡です。溝は建物が沈んだり傾いたりするのを防ぐ「地中梁」を設置するためのものと考えられます。今回の調査で3棟発見し、このうち東側で南北に並ぶ2棟は長さ約8m、幅約6mある大きめの建物でした。

これらの建物は竪穴建物が造られる前に建てられており、集落ができた当初は調査地周辺が貯蔵空間として使われていたのかもしれません。



溝と柱穴が出土
※柱材などは出土していません
▲布掘建物の復元模式図



▲布掘建物跡 人が立っているところが柱の跡



▲布掘建物跡から出土した完形の土器（器台）

つつがたどうき ぜつ 筒形銅器の舌

調査地中央の竪穴建物状の遺構から、青銅製と思われる棒が見つかりました。長さ5cmほどで、両端がすり減っていました。

これは槍などの柄の下端に取り付けられた飾り金具である「筒形銅器」の中に入れて、音を鳴らすための舌と考えられます。

筒形銅器は古墳の副葬品として見つかることがほとんどで、集落で出土するのは珍しいものです。



▲筒形銅器の舌



参考：筒形銅器
（鳥取市西浦山古墳出土）
鳥取県立博物館 2008
『企画展「因幡・伯耆の王者たち」図録』より

はにわかん 埴輪棺

107号墳の周溝の底に掘り込まれた穴の中から円筒埴輪を利用した棺が見つかりました。埴輪は高さ約56cm、広がった方の内径は約23cmです。棺の大きさから幼児を埋葬したと考えられます。

棺は円筒埴輪の両端と側面に板石を並べて固定し、埴輪に開けられた透かし穴には砂が入らないように石で蓋をしていました。



▲107号墳空撮写真
※赤丸が埴輪棺出土位置



▲埴輪棺出土状況



▲棺に使われた円筒埴輪



ついにハニワが出土したな!



■…竪穴建物 ■…布掘建物
■…土坑・溝など ■…井戸など水の湧く穴

長瀬高浜遺跡（4区）古墳時代前期の集落跡

